

# 響流

高田教区報

高田教区 第13次教化委員会テーマ  
私はどこで生きているのか  
～たずねよう 真宗の教えに～

2019年8月28日 第146号



親不知海岸（撮影：清澤）

## 響流のリニューアル

ひびき



高田教区

検索

発行所 真宗大谷派（東本願寺）高田教務所  
上越市寺町2-24-4 ☎025-524-3913  
<http://www.takada-kyoku.jp>

発行 橘 秀憲

印刷 永田印刷株式会社

# 響流

## のリニューアル



高田教区報『響流』編集長

淀野 壮介

今号より、高田教区報『響流』（以下『響流』）を、ご覧のとおりリニューアルして皆様にお届けする運びとなりました。

『響流』は、高田教区における様々な活動を皆様に報告し記録として残すのが主題であります。これまでも諸先輩方から編集員を引き継ぎ、しっかりとその役割を果たしてきたと自負しております。

しかし、近年においては、様々な広告・広報誌がカラー化され、旧態依然のものには目が届かなくなってしまう状況になってきたように思われます。

そこで、『響流』も役割を引き継ぎつつ、皆様に存在をアピールし意義ある広報誌であることをご理解いただき求められる存在となるようリニューアルを決断いたしました。

この度のリニューアルにあたりまして、次のことに配慮いたしました。

- ・記録誌としての役割をしっかりと果たす。
- ・カラー化の利点を活かし、写真・絵などを多用しわかりやすい誌面をめざす。
- ・興味をもってもらいやすい身近な話題も取材し掲載する、等々です。

ところが、現代社会における問題にも突き当たりました。現代はカラー化・映像化・動画の活用など、よりわかりやすく情報を伝える技術が進んでいます。その一方で、長い文章を読むことが苦手な人が大変増えていることや、写真や映像から受け取る情報は人それぞれであり、伝える側の意図したものとは違う伝わり方をすることがあることなどです。

伝えやすさを求めると、反って誤解を招くという結果もあることを学び、さらに伝えることの難しさを知ることになりました。

情報の表現が多様化するということは情報の表現を精査しなければならないということ、結局は、我々編集員がさらに自己研鑽に努めなければならないということだと考えています。自己研鑽といっても知識を深めることは、大変興味あることですし、仲間がいるおかげでさらに楽しみながらできます。研修会もより意義深いものになりそうです。

どうぞこれからも『響流』をご愛読くださいますよう編集員一同心よりお願い申し上げます。

最後に、このたびのリニューアルにあたり、会議や研修会を繰り返しながら、多くの方にご意見をいただくことができました。

特に「東京教区教化委員会報『ネットワーク9』編集員」の皆様には、リニューアルの先駆者としてご指導をいただき、多大な刺激をいただきました。「我々でも変えられる！」という強い意志をいただくことができました。

この紙面をおかりして謝意を表します。

## 高田教区・三条教区

## 第一次教区改編説明会

去る6月21日・25日に教区改編説明会が開催された。

本説明会は、教区のみなさんの関心の高さを示し、のべ140名（1回目110名、2回目30名）もの参加があった。これまでの経緯とタイムスケジュール、改編後の教化・組織・財務の方向性と検討課題について事務局から説明があり、そのあと参加者から、多数の質問・要望がなされた。

まず、教化について発言があった。「教化を中心に何事も決めるべきであるのに、今回の改編は、教化の充実に繋がらないのではないか。教化しやすいように変わるならいいけども。教化の事は後で検討しますというのでは順序が違うのではないか」「教区が広くなることは教化力と比例しないし、顔が見えることで手厚い教化になる。広くなることは不安である」。このような弱体化への懸念が指摘された。

次に、周知が足りないという事について、御門徒さんから、「改編が宗議会の決定事項として進んでいる事を、今回初めて聞いた」「宗門の危機的状況があるので、改編が行わ

れるとの話でしたが、危機的状況の分析とこれまでの対応をしっかりと表明した上で、改編が必要であるが出てこなければならぬ。この辺のことも情報を頂きたい」との発言があった。また情報の周知に関連して、「地方協議会で協議されたことを、みんなに知らせて、みんなの意見を聞きながら進めてほしい」という要望があった。「教区の改編はもう決定なの？」という戸惑いを感じられる。

それから、高田教務所が支所になった場合、職員の常駐、輪番、列座、坊守会、仏青など外郭団体への影響や変更点への質問もあった。今回、改編協議に携わる地方協議会員から、強い反対表明に代えて「改編しない選択肢はない。宗会の決定は絶対なので、合意できるまで、地方協議会を続けるしかない」との認識が示された。そして、「現在の教化体制や組織の在り方は変わらざるを得ない」。これからの協議を通じて、様々な懸念を払拭できる在り方について、「どうすればよりよくできるかご意見を頂きたい」ということであった。

さて、会場の雰囲気としては、積極的に賛成という感じではなかった。反対者の気持ちを無視して進めていってよいものか。教区全体の意思の確認くらいはしてもよい気がする。

それにしても、宗会の意図がどうであれ、この改編を奇貨とし、教化体制を刷新することが出来る。それは非常に魅力的に思える。その際には、教区人である私たちが教化で何をしたいのか、根本的な部分をこそ、徹底的に議論するべきであろう。

（取材 法隆）

6月21日（第1回目）



6月25日（第2回目）

# 研修会報告

## 靖国問題研修会

第1組 圓照寺 靖国班班長 藤島 直

去る5月21日、真宗門徒で法学者である平川宗信先生（名古屋大学名誉教授）を講師として、靖国問題研修会が開催された。

今回の研修会は、次年度12月の研修会とあわせて連続講座となっている。5月は、「真宗と社会問題」私たちが求める国・憲法と日本国憲法」を講題として開催され、12月の講題は、「真宗と改憲問題」真宗から見た改憲問題と私たちの課題」を講題として開催される予定である。

連続講座を企画したのは、憲法問題、とりわけ、現在、政府が進めようとしている改憲の風潮に対して、私たち真宗門徒が「どう関わっていくのか」を、「どうして関わらなければいけないのか」を考えることから確認していきたいという意図からである。

今回の研修会は「真宗と社会問題」私たちが求める国・憲法と日本国憲法」という講題の通り、「真宗門徒がどうして国家や政治（社会問題）に関わらなければならないか」を、平川先生ご自身の経験や法学者としての立場で感得されてきたところから聞かせていただいた。それが、そのまま私たち自身が「どう社会問題に関わっていくのか」ということ、真宗門徒として「どのような国を願うのか」、私たちに「どのような国が願われているのか」を問う内容であった。

印象に残ったのは、自己を問えば社会を問わざるを得ない。社会を問えば自己を問わざるを得ない。社会を問わない真宗は真宗ではない。同時に、自己を問わない真宗は真宗ではないと真宗と社会の関係を了

解されていたことである。ある意味、宗教と政治を別物に考えがちな私自身に、宗教も政治も今を生きる私自身の一部なのだを改めて認識させられた次第である。

その自己というものに立って、宗教的に「どう生きるか」という問いを立てたとき、必然的に政治的にも「どのような国を願うのか」という問いと同一にならざるをえない。一人の真宗門徒としては、「本願に生きる」ということになるが、その意味を平川先生は、「本願に救いではなくて、人間として生きていくことができるようになる。『本願に生きる』という生き方を阿弥陀様からいただく」というふうに表現された。

具体的には、四十八願、とりわけ憲法問題のかかわりで平川先生が挙げたのは、第一願の「無三悪趣の願」である。「地獄・餓鬼・畜生」が無い国を願う。人間が人間らしく生きられる、ニンゲンらしく生きたいと願う、その願いの場（浄土）に立ち帰って、憲法を考えていく視座を与えられたと思う。



## 解放推進委員会拡大学習会

### 「ハンセン病問題について」

第6組 安養寺門徒 橋本 賢一

5月24日、雨森慶為先生（本山解放運動推進本部委員）から、真宗大谷派が向きあっている差別問題の一つであるハンセン病問題についてお話しを伺いました。

まず、雨森氏は「国家による甚だしい人権侵害を見抜くことが出来ず、無批判に国家政策に追従し、隔離を運命と諦めさせるような慰問布教を行った」と教団の過ちについて説明されました。続いてスライドを使用し、療養所施設や入所生活などについてお話しがありました。時代と社会が、国家の体面のためにおこした国による差別問題は、そこに世間や宗教を含む各団体が協力し差別を助長していったという実態がありました。

さて、私は差別ということはどう思っているのか。自分も無意識に行って、「気づかない」、「気づけない」、「差別」という言葉が出てこない。だから気づけないのではないか。私は、9月25日に計画されているハンセン病の国立療養所栗生楽泉園への現地学習会に参加希望していません。脳は刺激をしないと働いてくれませんか。ご一緒に参加しませんか。



## 男女平等参画を考える研修会

### 「私たちの生きる社会は」

第1組 圓照寺 藤島 緑

5月31日に開催された第12回男女平等参画を考える会研修会は、講師に平山亮氏を迎え、「オトコの変え方・変わり方」の講題で話を聞きました。今回の参加者は45名でしたが、男性の方が多く参加されていたのが印象的でした。

初めに確証バイアス（第一印象が正しいと思ってしまう私たちの脳のメカニズム）の言葉を使い、普段自分たちがいかに思い込みで世の中を見てしまっているか、具体例を挙げて話をされました。

後半特に興味深かったのは「性別分業はなぜ不平等か」という問いです。その問いに対し「ケア責任（育児・家事）を負うと自活が難しくなるような社会ができていくから」「社会は妊娠・出産をする労働者を標準に含めていないから」と、今の社会の在り様を明確にされ、そこから派生する諸問題も言及していました。

もし社会が途中で休業せざるをえない労働者を標準に定めることができるのであれば、妊娠出産だけでなく様々な理由で働けない人たちが働きやすく、生活しやすい社会になるかもしれないと、今の社会が抱える多くの問題に通じるものを感じました。



## 得度一日研修会

6月1日開催

得度式受式にかかる装束のつけ方、たたみ方を主とした装束作法、読法・諸作法を主とした声明作法を学びました。



やまざきよしなり  
山崎義成氏  
(教区准堂衆)



## 教学研修会

5月25日開催

宗祖御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要をお勤めする意義についてご講義いただきました。



くすのき しんしょう  
楠 信生氏  
(教学研究所長)



## 聞思学場公開講座

6月26日開催

教区の研鑽機関である、聞思学場主催の公開講座「恒沙の信」をテーマにお話いただきました。



さのあまひろ  
佐野明弘氏  
(光闡坊住持)



## 伝道研修会

6月4日～5日開催

稲田支院光明寺に一泊しての研修会。『大経から浄土を学ぶ』をテーマに連続講座で学習しています。



おおしまよしお  
大島義男氏  
(雲集学舎世話人代表)



## センターバードウォッチング

企画調整局書記 青少年センター

谷 俊

5月18日、19日の1泊2日、日本野鳥の会東京支部から講師をお招きし、「第20回新緑の池の平とバード・ウォッチング」を開催しました。

1日目はいもり池周辺、2日目は早朝にセンター周辺、朝食後には長野県戸隠高原へ行きました。私は、探鳥会は初めてでしたが、一緒に歩いたみなさんのおかげで、たくさん鳥の声を聴くことができ、また、出会うこともできました。初めて使うプロミナーに苦戦しながらも、使い方やコツを教えていただき、美しく囀るキビタキにピントがあつた時は、日中の空に、見えるはずない星を見つけ、た幼少期の感動に似た気持ちになりました。講師の方々をはじめ、参加者みなさんが感性豊かで、本当に楽しい時間となりました。池の平青少年センターでは来年以降も、引き続きバード・ウォッチングを開催します。初心者でも大丈夫です。ここでしか出会えない鳥や自然に触れてみてはいかがでしょう。ぜひ、ご参加ください。



## 東本願寺池の平 青少年センターのご案内

団体、個人、家族等さまざまな形でご利用ください。青少年に限らず、さまざまな年代の方が利用できます。教区・組・寺院での各種行事等でぜひご活用ください。センター主催行事への参加も併せて奨励ください。

## 【センター主催行事】

- ・センター報恩講と新そばの夕べ  
2019年11月29日(金)～30日(土)
- ・スキー教室 2020年2月上旬
- ・雪に愉しむ池の平with子ども報恩講  
2020年3月上旬
- ・バードウォッチング  
2020年5月23日(土)～24日(日)

# NEWサンガ

今号から、新しく教師に補任、住職に就任された方々をご紹介します新コーナー「NEWサンガ」をスタートします。今回はここ一年で新しく住職に就任された方々をご紹介します。

みなさんとお話しするきっかけになればと思います。

## Q&A

みなさんに一問一答形式でインタビューしてみました。

- Q1. 趣味・特技
- Q2. 好きな言葉
- Q3. 尊敬する人
- Q4. 好きな芸能人
- Q5. 最近読んだ本
- Q6. マイブーム
- Q7. 近所のおすすめスポット
- Q8. 抱負



第3組 安専寺

老野生 信  
おいのしょう まこと

(2018年9月28日住職就任)

A1. ロードバイク 主にヒルクライム

A2. 「人はパンがなければ生きていけない。しかし、パンだけで生きるべきでもない。私たちはパンだけでなく、バラもともめよう。生きることはバラで飾られねばならない。」  
(國分功一郎『暇と退屈の倫理学』増補新版P・28 太田出版2015)

A3. 本多哲郎(釜ヶ崎の神父)

イエスの慈悲(行動)は全ての人のうちにあることを聖書の原典から教えていただきました。優れた学者であり、ホームレス支援の実践家でもあります。

A4. BUNP OF CHICKEN

A5. 『無量寿経』

○國分功一郎監修『哲子の部屋』

I 「哲学って、考えるって何」

II 「人はなぜ学ばないといけないの」

○國分功一郎『中動態の世界 意思と責任の考古学』医療出版2017

A6. 今はありません。

A7. 安専寺にぜひお越しください!

A8. 2019年11月末までは旅行会社との兼職の予定です。

退職後はお寺の掃除を第一に。宗教施設は場への信頼が大事だと考えております。お参りに来た人が何かを感じ



第6組 長命寺

柴田貴美子  
しばたきみこ

(2018年9月28日住職就任)

A1. ガーデニング、楽器演奏(リコーダー・ピアノ)、簡単な英会話

A2. 生涯現役

A3. 親鸞聖人

A4. 松任谷由実、Queen

A5. 歎異抄(本願寺出版社)

A6. ハーブ栽培

A7. びんのかげら(ピザがおいしい)

A8. 親鸞聖人の教えを学び続け、ご門徒さんたちと共に歩んでいきたい。





第7組 福藏寺

越山 悠人

(2018年6月28日住職就任)

A1. ランニング・読書

A2. 自己とは何ぞやこれ人世の根本的問題なり。(未来の住職塾塾長)

A3. 松本紹圭(本願寺派僧侶)

A4. イチロー(元プロ野球選手)

A5. 馬場ふみか

A6. 「何があっても生きていける方法」

A7. (トランジション)

A8. お金を稼ぐこと

A9. 新井別院

A10. 課題はたくさんありますが、今一度お寺はどういうところなのかを確かめていきたいと思っています。そこからお寺があって、よかったと思っています。いただけるような活動を広げていきたいです。



第8組 本覺坊

波多野英之

(2019年6月28日住職就任)

A1. 釣り・犬を連れてのハードな散歩

早口言葉



第13組 明通寺

小山 徹

(2019年6月28日住職就任)

A1. 特になし

A2. 自己とは…と考える時「人間は考える葦である」ということが気になった。

A3. ブレーズ・パスカル

A4. (フランスの哲学者)

A5. 特になし

A6. 「孤独のすすめ」(五木寛之著)

A7. 特になし

A8. 「親鸞何者なりや」は大切なことだと思ふ。同じく大事なこととして「親鸞をして、親鸞たらしめているものは、何者なりや」を考える必要があると思われる。直接の師、法然は…



第13組 本善寺

藤井 淳

(2018年2月28日住職就任)

A2. 習うより慣れろ

A3. 野口知佑(カヌーイスト、作家)

A4. 特になし

A5. 今、「死」について思うこと

A6. 風呂上がりのビール

A7. 特になし

A8. 生きていく中で、何度か立ち止まり自分を振り返る場があります。住職就任を機に、これからの自分住職としての立場を見つめ直し、門徒の皆様と真摯に向き合い、寺院を教化活動の場の一つとしていきたいです。

- A1. スポーツ観戦  
A2. 何事も挑戦  
A3. 中田英寿(元サッカー選手)  
A4. 浜崎あゆみ(歌手)  
A5. 真宗聖典  
A6. 寝る前のユーチューブ  
A7. 大池いこいの森  
A8. 門徒さんと一緒に聞法をしていく。

## 聞思学場だより

### 「本願力に遇うということ」



第7組 廣建寺

宮川 貞紀

このたび、幸福なことに井上円先生が講師をされ『仏説阿弥陀經』について講義いただける機会に恵まれました。思えば、円先生との出会いは、私が教師資格を取らせていただいた「真宗学院」において、「真宗教義」の授業を担当されていたのがそれです。当時を思い出しますと、眠い目を擦りながら慣れない真宗の教えをなんとか身体に染み込ませようと必死だったことが浮かびます。また、サラリーマンをしていて、非常に悩んだ

時期でもありました。苦悩の中にいた私は、本当の「本願力」に出遇っていなかったのかもしれない。

では今はどうかと言いますと、当時よりは、阿弥陀様の目を見て合掌できる心が備わってきたように感じます。

『仏説阿弥陀經』の講義を受けるなかで、たびたび先生がおっしゃる言葉に「死は滅亡か完成か」というものがあります。わたしたち人間が必ず迎える臨終を自分の心で捉えた時、そこにどう救いの道があるのかということ。『阿弥陀經』には、「西方にある極楽」の存在と「そこで今現在説法なきっている阿弥陀仏」が説かれています。そして、「今現在説法」とは「南無阿弥陀仏の念仏のすすめ」であると教えていただきました。

「命」とは私に与えられた「時間」です。

死は絶望だった考えに、浄土に生まれかわる救いを説かれた『仏説阿弥陀經』を、真摯に受け止めようと考えます。

最後に「i-phone（アイフォン）」で知られるアメリカ・アップル社を創設したスティーブ・ジョブズは、有限で、いつ終わるかも分からない人生を真に輝かせるのは、「今が人生最後の時だったら」という自己への問いかけであるという考えを示しました。「南無阿弥陀仏」に出遇うことのすばらしさをこういったところから感じるのも、少しは自分がマシな考え方になってきた証拠かなと思うこの頃です。



## 愚僧のつぶやき

### 〈真宗の葬儀編⑥〉

前回までは、葬儀の心をいただいていたわけですが、今回より、それを目に見える形に表した実際の葬儀式をみてゆきたいと思います。

もともと葬儀は、その土地の慣習などが色濃く影響しており千差万別でありました。ですから、必ずしも真宗の教えにかなう形ではありませんでした。現在の当派葬儀式は、昭和47年6月にご本山から提示されましたものを基本としております。そこには、葬儀が念仏相続なる仏事になってほしいという先人の願いを感じることでもあります。

それでは、臨終から納骨までをいただいでゆきます。現在は病院で臨終を迎え、体を清めていただき、自宅に戻ることが多いわけですが、まず問題となるのが、

ご遺体の安置場所です。基本的には、お内仏のある部屋に安置するわけですが、ここでは都合の悪い場合もあります。そのときは、別室の適当な場所に絵像本尊や名号本尊などを奉安し、ご遺体を安置します。大事なことは、ご本尊様のいらっしゃる部屋にご遺体を安置していただくということでもあります。

次に問題となるのが、ご遺体の向きです。基本的には、お釈迦様のご入滅の時のお姿にならって、北枕といたします。これは、後に仏弟子たちが、自身の成仏を願ったことといわれています。

でも、北側を頭にする、阿弥陀様に足を向けることになってしまふなど都合が生じる場合があります。そのときにどうするかは、昔から諸説あり現在でも定められていません。

ただ先日、こんなお言葉に出遇ったんです。「西方浄土に阿弥陀様がまします

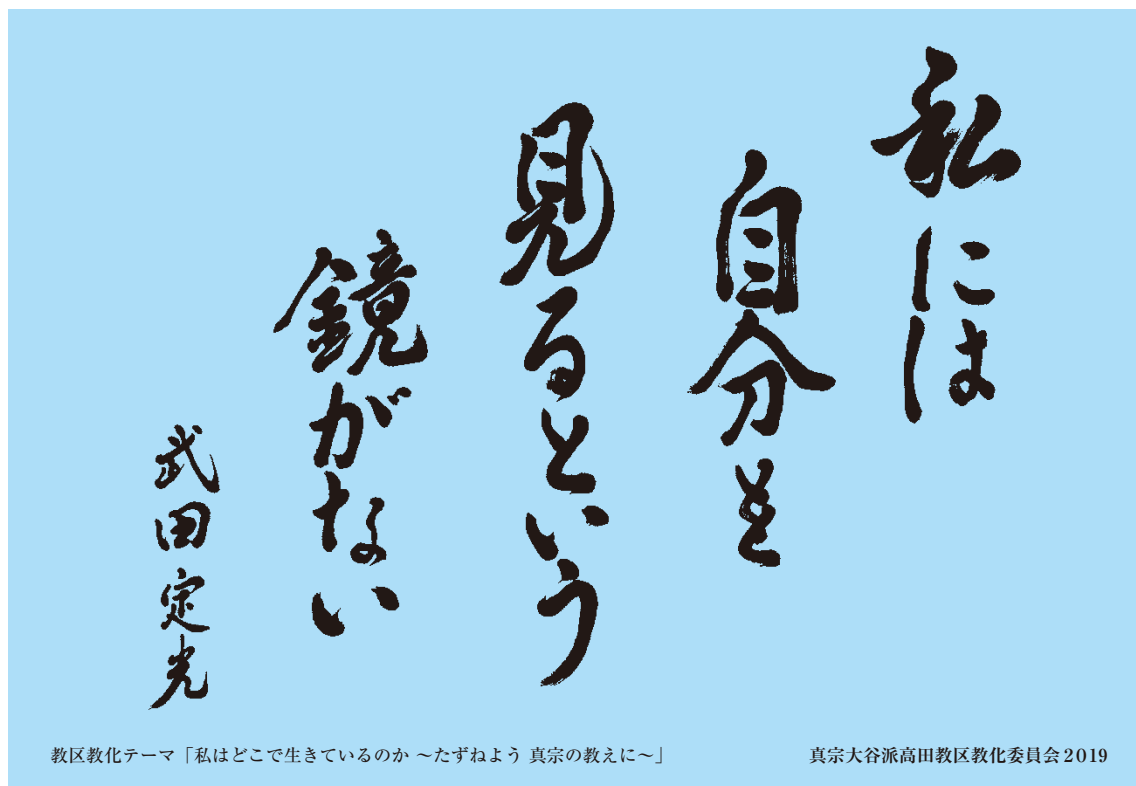
のではないよ。阿弥陀様のまします所を西方浄土と呼ぶのだよ」と。私、このお言葉がスーッと頷(うなず)けたんです。私は札幌市出身で、父は幼い頃に亡くなり、母は現在、千歳空港の隣町の恵庭市という所で一人暮らしをしています。もしも今、「あなたの故郷(ふるさと)はどこですか」と問われたら、生まれ育った札幌には違いないけれども、私が本当に帰りたい故郷は、札幌という場所ではなく、母のまします所であるなあと思つたことでもあります。

ですから、北枕ということも、実際の方角が都合悪ければ、阿弥陀様を奉安している所を西方とみて、阿弥陀様から見て、左側を頭にするれば北枕になるといただくことでもあります。

合掌 称六字

(ペンネーム) 維摩教信

## 法語ポスター



教区教化委員会社会教化研修部門広報委員会において、法語ポスター3点を選びました。また、教区ホームページ上にも、掲載しておりますので、印刷いただき、是非ご門徒様にもお渡しください。

教務所からのお知らせ

## 人事異動報告

## 「着任挨拶」



高田教務所長

橘 たちばな秀憲 ひでのり

このたび、7月1日付にて高田教務所長、兼ねて高田別院輪番・新井別院輪番を拝命いたしました。

教区の皆様には平素より宗門並びに教区・組、両別院の運営にお力添えを賜わり、厚く御礼申し上げます。もとより浅学非才の身であり、4年ぶりの教務所勤務ということ、身の引き締まる思いですが、前任者同様によりしくご指導のほどお願い申し上げます。

さて、2023年にお迎えする「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」は、昨年の内局巡回を通じ、6月の宗会でご承認をいただいた慶讃事業と予算を進めてまいります。本年度より慶讃懇志金の御依頼が始まるわけですが、当教区も年度内に教区お持ち受け事業等を推進していく機関の設置をはじめ、予算などを立案していかねければなりません。何卒ご協力のほど重ねてお

願い申し上げます。

加えて池の平青少年センターについては、先の慶讃法要時に設立され、50年という節目を迎えることです。営繕と五十周年記念事業については、本山の慶讃事業に組み入れていただき、本山青少年センターと教区の方々とは相談しながら進めてまいりたいと思います。

また教区御遠忌厳修のため、休止していた教区改編についての協議を再開し、第一次改編説明会を開催いたしました。当教区は、第二期改編教区に位置づけられ、2020年3月までに教区会・教区門徒会における合意事項の議決、そして2023年7月の新教区発足を目指し、鋭意協議を重ねていかねければなりません。なかなか教区間のことから、予定どおりには進まないかもしれませんが、皆様のご意見を賜りながら進めてまいりたいと存じます。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

宗祖ゆかりの地ということを胸に、微力を尽くしてまいりますので、皆様方のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

所属寺 能登教区 第7組 佛照寺  
宗務歴 教育部 親鸞仏教センター・出版部

解放運動推進本部・  
山形・福井・高山・岐阜・三重・  
京都・久留米教務所

## 「着任挨拶」



高田教務所主事

中川 なかがわ正見 まさみ

このたび、8月1日付で高田教務所主事を拝命いたしました。高田教区は書記補、書記として約六年お育ていただいた地です。まさかもう一度この地に戻ってくださると思っていましてもいいのですが、いただいたご縁を大切に、八年ぶりにお世話になります。当時は右も左もわからず、ご迷惑をおかけするばかりでしたが、今回は少しでもご恩返しできればと思っております。

高田教区では昨年、教区の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌も円成され、いよいよ教区改編という大きな課題に取り組んでいく大変重要な時期とお聞きしました。全く知らない土地ではないので多少のアドバンテージはあるとは思いますが、教区の内情も世代交代や社会状況により当然変わっていると思えます。一日でも早く現在の教区状況を知り、皆様のご理解とご協力を賜りながら、与えられた職責を果たせるよう尽力いたす所存です。よろしくお願いいたします。

## 「転任挨拶」

解放運動推進本部事務部長 荷葉 一浩

7月1日付で解放運動推進本部事務部長兼ねて企画調整局出仕を命ぜられました。これまで丸三年という期間ではありませんでしたが、ここ高田教区の教務所長兼ねて高田別院・新井別院の輪番を勤めさせていただき、教区・別院内の皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

一つには昨年4月高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が厳修されました。これまでの準備に引き続き、教区内の僧侶、坊守、ご門徒はもちろんのこと、様々な方々の会議、準備に向けた打ち合わせを重ねてきたこととございます。教務所、別院の職員合わせて緊張の中にも無事お勤めでき安堵したことが懐かしく思い出されます。

二つには高田教区は宗祖親鸞聖人の御流罪の地であることは勿論のこと、両堂再建の悲劇の地、尾神嶽へも何回か足を運ばせていただきました。当時の事故を忘れることなく現在でも掃除や研修会、雪中参拝が連綿と行われていることに感動したとございます。

解放運動推進本部は、部落差別をはじめとする様々な課題に取り組む部署でございます。今後とも様々な形で関わりが出てくるかと存じますので、これまでの感謝とともに今後とも教区・別院の発展を念じまして退任の挨拶とさせていただきます。

## 「転任挨拶」

岡崎教務所主事 清澤 和音

このたび、8月1日付をもちまして、岡崎教務所主事を拝命いたしました。

顧みますと、主事として2014年3月に着任して以来5年4ヶ月もの長きにわたって、教区の皆様には大変お世話になりました。その大半は、教区御遠忌に向けての会議や準備でした。その迎えるまでの道のりは並大抵なことではなく、様々なことがありましたが、教区の皆さんと共に教区御遠忌をお迎えすることができたことは、私にとってかけがえない勝縁をたまわることができました。

また、昨年は慣れない仕事で体調を崩してしまい、皆様にはご迷惑、ご心配をおかけしました。宗務役員をしていたからこそ、高田教区にご縁をいただき、教区の皆様と出遇えたのだと思うと、本当に有り難いことです。

これからは自教区である、愛知県の岡崎教務所にお世話になり、自坊の法務をしつつ、高田教区で学んだことを活かし、宗務に励んでまいりたいと思います。

大変名残惜しいですが、またお会いできる日を楽しみにしています。お近くへお越しの際は是非お立ち寄りください。ありがとうございました。

## テレホン真宗法話



教区教化委員会によるテレホン真宗法話は、下記の専用ダイヤルにおかけいただきますと、3分ほどの法話が流れますので、是非ご聴聞ください。10月からの担当者はご覧のとおりです。

2019年～2020年	担当	2020年	担当
10月	関 隆徳 第7組浄善寺衆徒 (聞思学場研修員)	4月	梅澤 未有 第1組光照寺坊守
			井伊 往子 第1組正覚寺坊守
11月	古見 太郎 第7組照光寺衆徒	5月	鈴井 祐恭 第2組常圓寺住職
12月	日野 顕英 第4組隨念寺住職	6月	老野生 信 第3組安專寺住職
1月	古海 法雲 第5組林正寺住職	7月	竹内 淳一 第11組光圓寺住職
2月	柴田貴美子 第6組長命寺住職	8月	横田 力 第12組善徳寺住職
3月	保倉 謙雄 第8組稱名寺住職	9月	笠原 武 第13組龍覺寺門徒

※担当者は都合により変更となる場合があります。

## 2019年度 教区会通常会及び教区門徒会通常会報告

下記議案について慎重審議の結果、可決承認されたので報告いたします。

- 第1号議案 2018年度高田教区経常部歳入歳出決算書
- 第2号議案 2018年度池の平青少幼年センター会計歳入歳出決算書
- 第3号議案 2018年度高田教区出版会計歳入歳出決算書
- 第4号議案 2018年度高田教区共済会計歳入歳出決算書
- 第5号議案 2018年度高田教区聖跡顕彰会計歳入歳出決算書
- 第6号議案 2018年度高田教区真宗教化研鑽室「聞思学場」特別会計歳入歳出決算書
- 第7号議案 2018年度高田教区東北地方太平洋沖地震・福島第一原子力発電所事故被災者支援会計歳入歳出計算書
- 第8号議案 高田教区共済規程の一部を改正する規程案
- 第9号議案 2019年度宗派経常費御依頼額算出基準案
- 第10号議案 2019年度高田教区教区費御依頼額算出基準案
- 第11号議案 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃懇志金御依頼額算出基準案
- 第12号議案 2019年度高田教区経常部歳入歳出予算
- 第13号議案 2019年度池の平青少幼年センター会計歳入歳出予算
- 第14号議案 2019年度高田教区出版会計歳入歳出予算
- 第15号議案 2019年度高田教区共済会計歳入歳出予算
- 第16号議案 2019年度高田教区聖跡顕彰会計歳入歳出予算
- 第17号議案 2019年度高田教区真宗教化研鑽室「聞思学場」特別会計歳入歳出予算
- 第18号議案 高田教区教区改編委員会委員の委嘱について同意を求める件



第12組専徳寺様  
宗祖親鸞聖人七百五十回  
御遠忌法要（6月16日）



第2組善止寺様  
宗祖親鸞聖人七百五十回  
御遠忌法要（5月19日）

おめでとうございます

## 完納御礼

2018年度宗派経常費（相続講金・同朋会員志）をご進納いただき誠にありがとうございます。

ここに、完納いただきましたご寺院名をこ披露し、御礼にかえさせていただきます。

- 第6組 唯願寺
- 第8組 本覺坊
- 第11組 真養寺

（2019年4月1日～6月30日）

以上三カ寺

## ●おくやみ申しあげます

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- 第4組 皆順寺住職 日下部周彦
- 第5組 林覺寺前住職 直江 智成
- 第5組 聽信寺住職 居多 徳恵
- 第6組 雲妙寺坊守 岡田 洋子
- 第13組 願念寺住職 山田 和雄

## ●おめでとーございませう

- ◎住職
- 第8組 本覺坊 波多野英之
- 第13組 明通寺 小山 徹

## 慶讃懇志金のお願ひ

2023年4月に「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えます。先般の教区会・教区門徒会によって御依頼割当が

議決され、今年度より4カ年度にわたって、御依頼させていただきます。何卒、ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。



## こもれば

四十度を超える日本で一番暑い日がまさか上越の高田になろうとは驚きである。

国連の世界人口白書によると、一九五〇年には二十五億人の人口が、一九九八年には六十億人と急増していて、二〇五〇年には百億人になると言われている。一方、世界の平均気温は一九八〇年以降、異常なまでの上昇が見受けられる。このまま（私利私欲）だと永久凍土が全て融けてしまい最大で七十メートル海面が上昇するとされている。

母なる海は生命の源であり、故郷である。言うなれば、お浄土であろう。雨粒一つが私の生命ではなからうか。全ての生命が雨となり生まれ落ち数多の川となり、そして海一味となる。まさに無明の闇を破る恵日のような、輝きに満ちた清々しい表紙である。

（平出）

